

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

エルサルバドル共和国

サンアグスティン地域開発プログラム(SLV-190776)



青少年クラブで学んだ編み物の技術を生かして様々な作品を作るルイス君(15歳)



作製中のバッグを見せてくれました。隣はルイス君の弟

チャイルドストーリー

得意の編み物で

収入を得る道を見出しつつあるルイス君

サンアグスティン地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすルイス君は、ADPの青少年クラブで学んだ編み物の技術を生かして、かばんや財布、小銭入れなど、さまざまな作品を次々に作っています。ルイス君が作る小物は友だちの間で人気が高く、作るとすぐに売れてしまいます。作品を売って得たお金で、学校で使うノートなどの学用品を購入しているというルイス君。昨年はクラスで2番の成績を修めることができました。「編み物を始める前は、ただテレビを見たり、遊んだりし

て自由な時間を過ごしていましたが、今は有意義に時間を使えるようになりました。編み物を学んで本当に良かったです」と話すルイス君は、青少年クラブで子どもの権利や正しい価値観を持って生きることの重要性についても学び、自尊心を持つことができるようになったと言います。かぎ針編みも習得し、作品の幅を広げたルイス君は、15歳にしてすでに若い起業家としての自信に満ちた笑顔を見せてくれました。

0～6歳を対象とした事業

子育て指導員が子どもたちの健康を守っています

ADPが開始当初から力を入れてきたのが、「子育て指導員」の養成です。主に地域の母親が指導員として選出され、ほかの母親に子どもの健康管理や、栄養に関する知識を普及しています。子育て指導員は2～3人で協力して働き、村の子どもたちの健康状態を定期的に確認し、栄養不良や病気を抱えた子

どもがいれば、地域の保健センターに紹介します。幼い命を守るためには予防接種も重要です。子育て指導員が母親たちに各種予防接種の内容や時期について伝え、接種をし忘れないよう手助けもしています。この働きにより、ADP支援地域内の子どもたちの98.3%が予防接種を受けることができました。



予防接種率は
 **98.3%**に！

子育て指導員同士で集まり、それぞれの経験を分かち合い、学び合う機会も設けています

7～20歳を対象とした事業

青少年が暴力の脅威に負けずに成長できるよう子どもクラブを展開しています

エルサルバドルには通称「マラス」という巨大な犯罪組織が存在します。貧困度や失業率の高さから多くの若者がマラスに加入し、犯罪に手を染めることで現金を得たり、誤った仲間意識の中で生きることを選んでしまっています。ADPでは、支援地域の青少年がそのような道を選ばずに、ともに楽しみながら生産的な活動をできるよう「子どもクラブ」の活動を推

進しています。クラブでは、道徳教育、性教育、将来の計画の立て方について教え、音楽、絵画、ダンス、算数、国語などのクラスも開講しています。将来の仕事につながるようハンモック作りや理容技術の指導も行っています。これらの活動に合計980人の青少年が参加し、暴力に対して「NO」という意志を強くしています。



ハンモック作りを学ぶ子どもたち。作品は地域のお祭りなどで販売することもあります



アクセサリー作りを楽しむ子どもたち

 **980**人の青少年が子どもクラブに参加

21歳以上(成人)を対象とした事業

養鶏を通じて収入向上と栄養改善に励んでいます

38の家族が養鶏に関する研修を受け、飼育方法や病気の予防と対処法などについて知識を深めることができました。これらの家庭は、近隣住民に市場価格よりも安い価格で卵を販売し、収入向上に役立てているだけでなく、地域の人々の栄養改善にも一役買っています。また、ADPの働きかけ

により、支援地域内の一つの村が在エルサルバドル日本大使館に小学校建設用の助成金を申請し、受理され、建設事業を開始することができました。この経験によって、村の人々は「自分たちにもできる」という自信をつけることができました。



養鶏の研修を受けた地域住民



在エルサルバドル日本大使館の助成金により建設中の小学校

\$38の家族が養鶏研修を受講



ADP マネージャー・インタビュー

Q. サンアグスティン地域の課題について教えてください。

ここは国で最も貧しい32の自治体のうちの一つです。80年代の内戦で多くの人々が苦しみ、地域外に移住してしまっただけでなく、過疎化したことと、2001年の地震で多くの人が家を失い、経済的な被害を受けたことが貧困の遠因となっています。また、治安が悪くギャングによる暴力事件が頻発することも大きな課題です。

Q. 2014年度、ADPの活動をする上で大変だったことは何ですか。

1カ月以上干ばつが続き、穀物が被害を受けました。また、治安の悪さや貧困から逃れるため、危険を冒してアメリカへ移住しようとする人々が後を絶ちません。特に近年、親の同伴なしに陸路でアメリカまで不法に移住を試みる子どもの数が急増しています。しかし、その途上でギャングに捕まり暴行を受けたり、飢え渴きにより命を失ってしまう子どもたちが数多くいます。ADPでは、移住に伴う様々な危険を各家庭に伝え、子どもたちが不法に国境を越えようとするのがないよう働きかけています。

Q. ワールド・ビジョンで働く原動力となっているものは何ですか。

A. 私自身が貧困家庭で育ったため、貧しい家庭の苦労はよくわかります。困難な状況にある子どもたちの栄養状態が改善し、病院で治療を受けられるようになって健康を取り戻し、チャイルド・スポンサーの方々との交わりを通して人の優しさに触れて、子どもたちとその家族が変わっていくのを見るのが、私の何よりの喜びです。



サンアグスティンADPマネージャー フェリックス・ロガス



支援地域の女性のストーリー

自分たちが住む地域の生活改善のために活動しています

サンアグスティンでは2014年夏に干ばつがあり、深刻な食料不足に直面しました。ワールド・ビジョン・エルサルバドルは国連世界食糧計画(WFP)に働きかけ、WFPの協力によって、住民が地域内の学校や井戸の清掃、緑地保全など公共サービスを行う対価として、食料の支援を受けられるというプログラムが実施されました。支援地域で3人の子どもを育てながら、農業と雑貨店を営むクララさんも、このプログラムに参加しました。「 Dengue熱などの伝染病を媒介する蚊が発生しやすい藪の草刈りを行って、地域の環境を良くすることができ、地域の一員として誇らしく思います。その上食料も手にすることができ、とても助かりました」と話すクララさん。ADPの活動を通して、栄養ある食事の重要性についても学び、ほかの母親たちを指導する地域のリーダーとしても活躍しています。



3人の子どもを育てるクララさん(27歳)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



チャイルド・スポンサーとの交流は子どもたちにとって大きな励みになっています

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

そのほか、2014年度は体調を崩していた130人のチャイルドに対して、病院への紹介や薬代の補助を行いました。

会計報告

SLV-190776

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

プログラム支援額(単位:円)

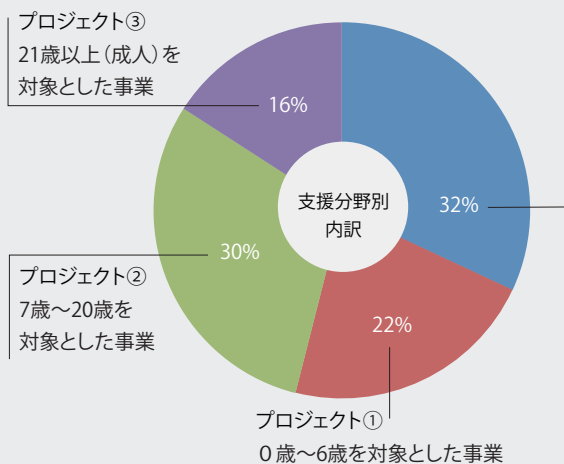
チャイルド・スポンサーシップ	28,464,413
当期支援額	28,464,413
前期繰越金	1,405,563
プログラム支援額合計	29,869,976

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	9,623,762
プロジェクト① 0歳～6歳を対象とした事業	6,628,095
プロジェクト② 7歳～20歳を対象とした事業	9,081,241
プロジェクト③ 21歳以上(成人)を対象とした事業	4,783,693

プログラム支出額合計	30,116,791
次期繰越額	-246,815

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 **ワールド・ビジョン・ジャパン**
 電話：03-5334-5351 (平日 9:30～17:00)
 FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
 e-mail：dservice@worldvision.or.jp